

HANDEL FESTIVAL JAPAN

HANDEL, A MAN OF PASSION & A MAN OF THEATRE

激情人、劇場人、ヘンデル
第1回 HFJ 2003 「キャノンズのヘンデル」

監修：三澤寿喜

ファン待望のヘンデル・フェスティバル、今冬、満を持して東京・浜離宮にて開幕



12/11^(木) 7:00 pm

「ヘンデルのキャノンズ時代と
初期英語作品」

ヘンデル・オラトリオのルーツを訪ねて
(レクチャー・コンサート)

浜離宮朝日小ホール

講師：三澤寿喜

演奏：辻 裕久 (テナー)
懸田奈緒子 (ソプラノ)
渡邊 孝 (チェンバロ)

英語カンタータ

《ヴィーナスとアドニス》(本邦初演)

《シャンドス・アンセム》から
アリア、重唱など

ヘンデル・アリアの
チェンバロ・パラフレーズ

チケット：3,000円 (全席自由)

12/12^(金) 7:00 pm

《エイシスとガラテア》

初稿 HWV49a 全曲 本邦初演

イタリア・セレナータ様式による
(衣装、背景付)

浜離宮朝日ホール

辻 裕久 (エイシス)
懸田奈緒子 (ガラテア)
田代和久 (ポリフィーマス)
片野耕喜 (デイモン)
谷口洋介 (テナー)

キャノンズ・コンサート室内管弦楽団

渡邊 孝 (チェンバロ/指揮)

松永綾子、山口幸恵、渡邊さとみ、中丸まどか(ヴァイオリン)
懸田貴嗣(チェロ)/西澤誠治(ヴィオローネ)
三宮正満、江崎浩司(オーボエ)

衣装コーディネーター・有松陽子

チケット：(全席指定)

6,000円(S) / 5,000円(A)

3,000円(学生 当日のみ)

両日通し券(1割引)は前売のみ、
エアリエルにて取り扱います。

後援：プリティッシュ・カウンシル
協力：久保田工房/衣装協力：財団法人北区文化振興財団
マネージメント：エアリアル
問い合わせ：エアリエル 03-5465-2145

主催
ヘンデル・フェスティバル・ジャパン実行委員会

共催：朝日新聞社

チケット取り扱い
エアリエル 03-5465-2145
朝日ホール・チケットセンター 03-3267-9990
チケットぴあ 0570-02-9990
東京文化会館チケットサービス 03-5815-5452

HANDEL FESTIVAL JAPAN

ヘンデル・フェスティバル・ジャパン (HFJ)

2009年はヘンデル没後250年となります。その年を見据えながら、2003年よりヘンデル・フェスティバルを開催します。当フェスティバルでは声楽曲から器楽曲まで広汎なヘンデル作品を包括的、継続的に演奏し、とかく「メサイア」に偏りがちな「ヘンデル像」を正し、直接的で劇的な表現力に富むヘンデル作品の真の魅力を浮き彫りにします。「野心的で、挑戦的なプログラミング」と気鋭の演奏家集団による「表現力豊かな演奏」が巻き起こす新しい風にご期待ください。併せて、研究者と演奏者によるレクチャー・コンサートを通じて、ヘンデル作品の新しい解釈の指針も呈示します。



第1回 HFJ 2003:「キャノンのヘンデル」～初期の英語作品。オラトリオの萌芽～

1717年夏から1718年頃まで、ヘンデルは一時的にロンドン郊外キャノンのシャンドス公爵の邸に滞在しました。ここでのヘンデルは1711年のオペラ「リナルド」の大成功以来、継続的に展開してきたロンドンにおけるオペラ活動から一旦身を退き、英語作品を作曲します。「キャノン時代」と呼ばれるこの時期に作曲されたヘンデル初期の英語作品(2つの劇的作品:《エイシスとガラテア》と《エステル》、11曲の《シャンドス・アンセム》)はヘンデルのオラトリオのルーツと目される重要な作品群です。記念すべきHFJ第1回公演はこの「キャノン時代」を中心に、初期の英語作品に焦点を当てます。

第1日 レクチャー・コンサート 『ヘンデルのキャノン時代と初期英語作品』～ヘンデル・オラトリオのルーツを訪ねて～

初期の珍しい英語作品を通じて知られざるヘンデルの魅力を探ります。とはいえ、「お祭り」なんだから、堅いレクチャーだけでなく、「楽しく、しかもクオリティを保った演奏会」を目指します。演奏曲目 ①英語カンタータ《ヴィーナスとアドニス》(1711):ヘンデル初めての英語作品。慕い合うヴィーナスとアドニス。ある日、アドニスは猪に襲われて死ぬ。悲しむヴィーナスが彼の血に神酒を注ぐと、赤いアネモネが咲き出る。懸田奈緒子の歌うのびやかな2つのアリアとそれをつなぐ辻裕久の英詩朗読という「実験的演奏」(本邦初演)。②劇中歌「Twas when the Seas were roaring」(1716)。有節形式の洒落なバラッド。バラッドとは風刺や時事を歌に盛り込んだ「かわら版」。辻裕久の表現力が聴き所。③キャノン時代の《シャンドス・アンセム》(1717/18)からのアリア、二重唱など。④(ちょっと目先を変えて)ヘンデルアリアの華麗なる「チェンパロ・バラフレーズ」:オペラ「リナルド」よりLascia ch'io piangaとVo' far guerra(リストも仰天、4ページにも及ぶ64分音符の音階と分散和音の連続)他。

第2日 マスク《エイシスとガラテア》HWV49a (全曲 イタリア・セレナータ様式による) 本邦初演

愛し合うエイシスとガラテア。しかし、ガラテアに思いを寄せる醜い一目巨人ポリフィーマスが現れ、エイシスと決闘となる。エイシスは巨人の投じた巨岩の下敷きとなって息絶える。田園で繰り広げられるこのギリシャ神話の悲劇を、独唱、二重唱、三重唱、五重唱を多彩に駆使して、劇的にうたいあげた初期の英語作品の傑作。晩年のオラトリオの原点。モーツァルトが《メサイア》とならんで編曲の対象としたほど18世紀の人気作品。美しいアリアの数々と、男4人に紅一点(STTTB)というキャノン時代独特の編成による声楽アンサンブル。多様で多彩なヘンデル声楽曲の醍醐味。至福のひと時をお約束します。PERFORMING POLICY: 1718年、シャンドス邸における初演の可能な限り忠実な再現。声楽、器楽とも編成は当時のキャノン邸専属楽団「CANNONS CONCERT」を再現。イタリア・セレナータのスタイルによる上演:背景幕(田園風景)使用、衣装有り、演技なし、合唱は独唱者による重唱、1幕物として上演(90分休憩なし)。



George Frideric Handel (作曲家、投資家、絵画収集家、美食家)
ハノーファー宮廷楽長。英国王室礼拝堂作曲家、HFJ名誉顧問! 1685年、ドイツのハレ生まれ。1727年イギリス帰化。1759年ロンドンにて没。生涯を通じて、劇場に活動の場を求めた「劇場人」。およそ70曲ものオペラやオラトリオは高額の入場料を払った客を満足させるための劇場娯楽作品。それらに一貫するのは強さや美しさばかりではなく、弱さや醜さをも併せもった人間存在そのものに対する温かな共感。血の通った人間ドラマを劇的に描くことに生涯を捧げた劇場の魔術師。性格は多血質。ハンブルクでは上司のマッテンソンと決闘。ローマ滞在中には自作のオラトリオのリハーサルにおいて、指揮者のコレリが、力強く情熱的な自分の序曲を、穏やかに上品に演奏するのに耐えられず、その手からヴァイオリンをひったくり、自ら激しく演奏してみせた「激情人」。



三澤壽喜 Toshiki Misawa (音楽学、ヘンデル研究家)
HFJ実行委員長。主要訳書:ホグウッド「ヘンデル」(東京書籍)、P.ウィリアムズ校訂「ヘンデル・クラヴィア曲集」(音楽之友社)、他。主要編著書:『ヘンデル二重唱曲集』(音楽之友社)、『ヘンデル・アリア選集1,2,3』(共編著:全音楽譜出版社)、他。主要論文:『G.F.Handel's Borrowings(III) - Regarding His Five Operas Composed in the 1710's』(「音楽学」)、他。北海道教育大学函館校教授。



辻 裕久 Hirohisa Tsuji (テナー)
HFJ実行委員。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学院修了。英国国立音楽院大学院修了。1994年《メサイア》のソリストとしてロンドン・ロイヤル・フェスティバルホールにデビュー。以来英国を中心に欧米各地の音楽祭に招かれ好評を博している。イギリス・グレートエルム声楽賞。第32回フランス・ヴィーナス国際声楽コンクール第3位。同最優秀オラトリオ・ソリスト歌手賞。ニューヨーク国際オラトリオ・コンクール入賞。滋賀大学助教授。



懸田奈緒子 Naoco Kaketa (ソプラノ)
HFJ実行委員。東京藝術大学卒業。同大学院修了(古楽専攻)。1997年友愛ドイツ歌曲コンクール第2位、1998年古楽コンクール山梨第3位、及び日本音楽コンクール入選。近年は古楽器とのアンサンブルを中心に活動。バッハ・コレギウム・ジャパンのレコーディング、演奏会等に参加している。ヘンデル《メサイア》、バッハ《ヨハネ受難曲》など宗教曲のソリストとして活躍。また舞台作品にも意欲的に参加し、好評を博している。



片野耕喜 Koki Katano (テナー)
東京学芸大学、東京藝術大学大学院、ハンブルク音楽院、ブレーメン芸術大学音楽科卒業。高橋修一、H.v.d.カンブ氏に師事。福音史家役を得意とし、シュツ、パッサやテレマンなどはドイツでも高い評価を受けている。英、仏、伊各国でも活躍。ドイツでのシューベルト《冬の旅》も好評を得た。バッハの《ヨハネ受難曲》やカンタータ集、ブルーンスのカンタータ集などの録音がある。山梨大学助教授。



谷口洋介 Yosuke Taniguchi (テナー)
国立音楽大学声楽科卒業。声楽を宮崎義昭、中村健、大石正治、ヒサコ・タナカ(在イタリア)に師事。第19回室内音楽コンクール「ソレイユ新人オーディション」第1位。2001年音楽現代新人賞受賞。昨年12月、ヘンデル《メサイア》(ゲアノート・シュマルプス指揮/名古屋フィル)でソリストをつとめ好評を得た。「バッハ・コレギウム・ジャパン」、ヴォーカルアンサンブル「ラ・フォンテヴェルデ」、古楽演奏集団「トロヴァトーレ・リヴァンティ」のメンバー。



田代和久 Kazuhisa Tashiro (バス)
東京藝術大学大学院修了。ドイツ歌曲を中心としたコンサート、宗教曲のソリスト、オペラ等幅広く活動。最近のオペラ出演はドニゼッティ《当惑した家庭教師》(家庭教師)、ヴェルディ《二人のフォスカリ》(フォスカリ)他。第65回日本音楽コンクール入選。第6回J.S.G国際歌曲コンクールシニア部門第3位。第10回日本声楽コンクール第1位および田中路子賞。二期会会員。



渡邊 孝 Takashi Watanabe (チェンバロ)
東京音楽大学(ピアノ専攻)卒業。桐朋学園大学研究科(チェンバロ専攻)修了。98年および2001年プルーヴェンジュ国際チェンバロコンクールでディプロマ受賞。99年古楽コンクール(山梨)にて最高位、及び栃木(蔵の街)音楽祭賞を受賞し、同音楽祭にてバッハの《ゴルトベルク変奏曲》を演奏し好評を得る。チェンバロを渡邊順生。現在はアムステルダム音楽院でポップ・ファン・アスベレンに師事。日本国内、オランダ、ベルギーにて演奏活動を行っている。

キャノンズ・コンサート室内管弦楽団 CANNONS CONCERT CHAMBER ORCHESTRE
2003年、HFJのために設立。ヘンデルが1718年頃に滞在したシャンドス公爵の壮麗・豪華な邸宅の専属楽団「Cannons Concert」に因む。

HFJを支援する会 — HANDELIAN —

2003年より開幕するHFJはヘンデル作品がわが国においても正当に評価されるよう、その魅力を演奏やレクチャー活動を通じて紹介していきます。しかし、大掛かりな舞台作品を上演し、完成度の高い演奏を維持するためには、理解ある方々の支援が必要です。そのために、「HFJを支援する会」が発足しました。年会費は1口1万円。会員特典は、HFJのプログラムへのお名前掲載(ご希望により)、HFJ主催の各公演の優先予約と割引(2割引)、演奏者との交流、リハーサル見学、会員番号としてお好きなヘンデル作品番号HWVの取得(先着順、重複不可)などがあります。

ご案内

- 都営地下鉄大江戸線・築地市場駅A2出口、0分。
- 地下鉄日比谷線・東横線6番出口、築地駅1、2番出口から徒歩7～8分。
- 都営浅草線・東横線6番出口から徒歩7～8分、新橋駅から徒歩15分。
- JR新橋駅南口から徒歩約15分。
- 新橋駅南口から都営バス(市3)系統「中央池袋市場行」または「朝日新聞循環」で「新橋駅」または「朝日新聞社前」下車。
- 駐車場は近くの首都高汐留地下駐車場をご利用ください。(問い合わせ先:03-3542-0341)

朝日新聞東京本社
浜離宮朝日ホール
〒104-8011 東京都中央区新富5丁目3番2号
TEL 03-5541-8710 FAX 03-5541-8705
http://www.asahi.com/asahi/hall/

